

(参考) 1次審査で利用した「審査用プロンプト」

〈例〉

審査対象プロンプト：難解な金融用語の「中学生向け」解説

審査項目：明確性、実用性、創造性（各5点/15点満点）

改善提案：最低3つの課題を出力

【出カイメージ】

【エントリー名：難解な金融用語の「中学生向け」解説】

プロンプト本文：

以下の金融・銀行用語を、銀行業務を全く知らない中学生でも理解できるように、身近な例えを使って分かりやすく解説してください。

用語：[シンジケートローン]

審査対象プロンプト

項目	点数	講評（技術的視点を交えて具体的に）
明確性	4/5	「対象読者＝銀行業務を知らない中学生」「身近な例えを使う」という点がはっきりしており、文体・難易度のターゲティングは比較的明確。用語も変数として扱える構造（用語：[○○]）になっており拡張性はある。ただし、「文字数の目安」「専門用語の使用可否」「段階構成（結論→例え→補足）」が指定されていないため、モデルごとの出力スタイルのブレが残る。
実用性	4/5	OJTや自己学習というユースケースは明確で、用語を差し替えてもそのまま使える点で汎用性は高い。難易度設定も「中学生」と具体的で、社内の教育コンテンツとして安定した品質を出しやすい。一方で、「どこまで簡略化してよいか」「本質的なポイントは何か」が定義されていないため、簡略化しすぎて実務上のニュアンスが失われる可能性がある。
創造性	3/5	「中学生向け+身近な例え」というのはよくある教育用プロンプトで、特段高度な技術（論点分解、誤解しやすい点の事前列挙など）は使われていない。ただし、用語を変数として受け取る構造を前提としている点は、業務ツール化を意識した設計と評価できる。
合計	11/15	-

審査項目

プロの視点からの改善提案

● 課題の指摘

- 「身近な例え」を1パターンに任せているため、例えが刺さらない場合に再問い合わせが必要になる。
- 定義・特徴・具体例・注意点といった説明の構造が決められておらず、説明の粒度が講師やモデルに依存してしまう。
- 専門用語をどの程度排除するべきかの基準がないため、モデルによっては「参加行」や「アレンジャー」など未説明の専門用語が紛れ込むリスクがある。